佛心寺 お手紙掲示板 10月

うけてから つぐ

「受け継ぐ」という言葉があります。「おばあちゃんの料理の味を受け継ぐ」「お父さんの仕事を受け継ぐ」のように使います。

この言葉をよく見ると、二つの言葉が合わさっています。「受ける」と「継ぐ」です。順番は、いつも「受ける」が先です。受けていないものは、継ぐことができないからです。口ぐせ、笑い方、困っている人を放っておけないところ。気がついたら、もう自分の中にあります。

みそ汁の味は、ふだん気にもとめませんが、よその家でみそ汁をいただいて「あれ、うちのと違う」と思ったとき、はじめて「うちの味」があったことに気づきます。そう考えてみると、亡き方からもらったものも同じです。気づかないうちに、今の私をかたちづくっています。

そして「継ぐ」とは「あ、これはあの人からもらったものだ」と気づくことです。気づいたとき、届いていたものは、はじめて自分のものになります。

法事やお墓参りは、もらったものに気づき直すための時間なのかも知れません。
この秋、自分の中に、あの方からもらったものを見つけてみませんか。



合掌